

令和2年度 グループホームすみれ 事業方針並びに事業計画

目標 地域密着型施設として利用者に家庭的な環境を提供し、地域住民との交流を通して、地域の困りごとに少しでもお役に立てることができるようなグループホームとなる。

各入居者が当たり前前の生活を当たり前前に行けるよう、住み慣れた地域で自分らしく、また、心地よいなじみの環境で安心して暮らせるよう支援する。

昨年度に引き続き「ランチの旅」を定期的に計画し、地域訪問も兼ね、楽しみ作りと地域交流の機会にしたい。

運営方針

- ①個々の入居者のニーズをくみ取りケアプランに反映させ、各入居者の求める自分らしい生活を実現する。また、入居者の持っている力を大切にし、可能性を最大限生かせる支援を行う。
- ②入居者がいつまでも住み慣れたホームでなじみの生活が継続できるよう、健康管理や日々の些細な変化に留意し、必要時には主治医と密に連携を取る。
- ③管理栄養士の助言を受け、健康的で美味しい食事を提供する。また、入居者の経験を生かした昔なじみの料理を共に作り、役割づくりや自尊心の向上につなげる。
- ④サービスの質の確保のため、自己サービス評価を行う。評価により改善点を明確にし、ケア向上を促す教育に役立て、入居者・家族の安心と満足につなげていく。
- ⑤「グループホームすみれ家族会」の運営を支援し、入居者、家族の要望把握に努め、必要な改善を行う。また、家族との信頼関係を築けるよう報告や連絡を密に行う。
- ⑥地域密着型サービスとして、町行政や地域包括支援センターとの協力・連携を図る。
また、地域推進会議や地域行事に共に参加し、地域住民とのつながりを大切にし、地域からも必要とされる事業所作りを目指す。
- ⑦近年多発している自然災害や防火安全災害対策を行い、防災計画の元、防災訓練を行う。入居者の安全を第一にし、備蓄品の管理も随時行う。
- ⑧日頃から、ヒヤリハット等の事例を通し、事故の未然防止策を取る。リスクの根本原因を究明し、リスク除去を行い、入居者が安全に事故なく過ごせる環境を作る。随時、取り組みの評価と見直しを行い、緊張感を持って業務に当たる。
- ⑨感染症の予防対策に重点を置く。特に令和2年は新型コロナウイルスが流行しているため、終息がみられるまでは万全の態勢で入居者、職員の健康維持に努める。また、流通の停止、職員の休みによる人員不足も考えられるため、あらかじめ計画、準備を行っておく。
- ⑩スタッフ一人一人が、自覚と自信を持って業務に当たれるよう、コミュニケーションを密にし、些細な気付きや意見が言いやすい環境を目指す。